



平成30年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年5月11日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2538 URL <http://www.j-fla.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 檜垣 周作  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-7688-5900  
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第2四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	16,242	33.5	153	△50.6	2	△98.4	△89	—
29年9月期第2四半期	12,168	△3.8	310	33.5	130	111.0	47	—

(注) 包括利益 30年9月期第2四半期 △91百万円( —%) 29年9月期第2四半期 81百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	△4.80	—
29年9月期第2四半期	3.83	3.80

(注) 平成30年4月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第2四半期	28,673	9,408	32.7
29年9月期	28,271	8,289	29.3

(参考) 自己資本 30年9月期第2四半期 9,381百万円 29年9月期 8,273百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	—	—	0.00	0.00
30年9月期	—	—	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

平成30年3月16日公表の「株式会社アスラポート・ダイニングによるジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社の株式交換による完全子会社化に関する株式交換契約締結のお知らせ」に記載のとおり、当社は株式会社アスラポート・ダイニングの完全子会社となり、当社株式は上場廃止となることが見込まれますので、平成30年9月期の期末配当を行わない予定です。

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

平成30年3月16日公表の「株式会社アスラポート・ダイニングによるジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社の株式交換による完全子会社化に関する株式交換契約締結のお知らせ」に記載のとおり、当社は株式会社アスラポート・ダイニングの完全子会社となり、当社株式は上場廃止となることが見込まれますので、平成30年9月期の連結業績予想は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期2Q	21,105,781株	29年9月期	17,947,887株
② 期末自己株式数	30年9月期2Q	4,772株	29年9月期	4,712株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期2Q	18,654,542株	29年9月期2Q	12,473,703株

(注)平成30年4月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成30年3月16日公表の「株式会社アスラポート・ダイニングによるジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社の株式交換による完全子会社化に関する株式交換契約締結のお知らせ」に記載のとおり、当社は株式会社アスラポート・ダイニングの完全子会社となり、当社株式は上場廃止となることを見込まれますので、平成30年9月期の連結業績予想は記載しておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善を背景に緩やかな回復基調が続いておりますが、一方で個人消費の低迷や人手不足の顕在化等により国内景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、依然として企業間競争が激しく、景気の先行き不安による消費者の節約・低価格志向も継続しております。更に当社グループの場合、欧州で発生している鳥インフルエンザにより、フォアグラ・家禽類の販売に大きな影響を与える厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは平成29年10月1日付で酒類製造販売事業を営む銀盤酒造(株)、佐藤焼酎製造場(株)及びヨーロッパの食材・ワインの輸入卸販売事業を営む(株)アークを連結子会社化し、事業規模の拡大を図りました。グループ全体の施策としては、既存顧客の深耕、新規顧客の開拓、新商品の導入、注力商品の拡販等を掲げ、売上高及び利益の向上に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は16,242百万円(前年同期比33.5%増)、営業利益は153百万円(前年同期比50.6%減)、経常利益は2百万円(前年同期比98.4%減)となりました。また、特別損失で51百万円(うち経営統合関連費用42百万円)発生したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は89百万円(前年同期は47百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、平成29年3月1日付にて、東洋商事(株)及び小林産業(株)を連結子会社化したことにより、前第3四半期連結会計期間から「国内食品類・酒類卸売事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

#### (食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、業務用の大口顧客向けが堅調でしたが、家庭用の主力商品「マルキン こいくちしょうゆ 1L」「マルキン うすくちしょうゆ 1L」が苦戦したこと等により前期の売上を下回りました。

つゆ・たれ類につきましては、業務用が苦戦したものの、家庭用の新商品「イチミツボシ 阿波尾鶏スープ塩鍋つゆ 750g」「盛田 国産名古屋コーチンうまだし鍋つゆ 600g」が堅調だった他、既存商品の「マルキン 大阪うどんすき鍋つゆストレート 750g」「盛田 国産紅ずわい蟹だしうま鍋つゆ 750g」といった鍋用つゆストレートパウチ商品や「イチミツボシ ごまドレッシングゆず果汁入り 500ml」も好調だったこと等により前期の売上を上回りました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、業務用が苦戦したものの、家庭用の主力商品「盛田 料理酒 1L」「盛田 醸造みりんタイプ 1L」が順調に推移したこと等により前期並みの売上となりました。

漬物につきましては、なら漬の主力商品「忠勇 あっさり味なら漬(胡瓜) 120g」や伝統製法の商品が堅調に推移しましたが、原材料不足により供給が滞ったこともあり前期の売上を下回りました。

飲料につきましては、主力商品の「ハイピース 加賀棒茶ほうじ茶 330ml」や「ハイピース有機むぎ茶 500ml」、新商品の「ハイピース 和栗の紅茶 350ml」が堅調に推移したものの、2月の大雪による被害で生産・物流に影響が出たため一時的に供給を制限することとなり前期並みの売上となりました。

日本酒及び焼酎につきましては、平成29年4月より連結子会社になった千代菊(株)及び常楽酒造(株)、平成29年10月より連結子会社になった銀盤酒造(株)及び佐藤焼酎製造場(株)の寄与があり前期の売上を大きく上回りました。

本みりんにつきましては、PB商品の新規獲得が順調に進んだこと等により前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は7,063百万円(前年同期比10.9%増)、セグメント利益(営業利益)は232百万円(前年同期比11.1%減)となりました。

#### (輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、トリュフは収穫不良による価格高騰の影響がありながらも売上を伸ばし、冷凍パンの「ブリドール」は新規獲得及び既存顧客のアイテム数増等により好調に推移しました。フランスのジュース・ジャムの「アラン・ミリア」もホテルや婚礼宴会を中心に順調に売上を伸ばしました。また、ナチュラルミネラルウォーター「エビアン」の業務向けラインナップの取扱いを開始し売上に寄与しました。しかしながら、欧州(ブルガリア、フランス)で発生している鳥インフルエンザの影響で、フォアグラ・家禽類の販売が低下したこと等により、

全体としては前期の売上を下回りました。

製菓用食材につきましては、主力商品「Kiriクリームチーズ」を使用した新商品が発売されたことや、他社製品からの切替え等に成功し新規案件を獲得したものの、既存顧客への販売が減少したこと等により前期の売上を下回りました。

小売商品につきましては、バレンタイン企画として新規に取扱いを開始したフランスの本格ショコラブランド「イヴ・チュリエス」や、フランス料理界を代表するアラン・デュカス氏が展開している「ル・ショコラ・アラン・デュカス」の国内独占販売契約によりチョコレート等が売上に寄与した他、フランスを代表するビスケット「サンミッシェル」が好調だったこと等により前期の売上を上回りました。

ワイン類につきましては、主力商品の一つであるシャンパーニュ「アヤラ」が婚礼需要等で売上を伸ばしました。カリフォルニアワインやイタリアワインも順調に推移し、また新規に取扱いを開始したジョージアワイン「オルゴ」 「シャトー・ムクラニ」が売上に寄与したこと等により前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は4,779百万円(前年同期比2.1%減)、セグメント利益(営業利益)は72百万円(前年同期比64.0%減)となりました。

#### (国内食品類・酒類卸売事業)

業務用食材につきましては、海老カツ、芋焼酎等のPB商品の拡販やフレンチ・イタリアン業態の新規開拓は順調に進んだものの、取引先の廃業や既存顧客の需要減もあり苦戦しました。

デリカにつきましては、鶏モモ肉やトンカツ類の販売が好調でしたが、野菜や魚類等の原材料高騰による商品の値上げの影響もあり伸び悩みました。

外食につきましては、居酒屋や焼き鳥業態が好調で、既存店の売上が伸びました。また外食チェーンやファーストフード業態も新規出店等により好調に推移しました。

通販につきましては、集客強化に向けたリスティング広告や新規チャネルの活用等により新規顧客開拓が順調に進んだ他、既存顧客との取引も堅調に推移しました。

医療・介護食品につきましては、既存顧客への販売強化や新規顧客開拓により売上を伸ばした一方で、取引終了になった先があり、流動食の需要減もありました。

この結果、当事業の売上高は4,201百万円、セグメント利益(営業利益)は0百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、商品及び製品が298百万円、仕掛品が493百万円増加し、現金及び預金が1,816百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ979百万円減少し14,687百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が954百万円、のれんが337百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,381百万円増加し13,986百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ402百万円増加し28,673百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が367百万円、短期借入金が504百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ797百万円減少し15,985百万円となりました。固定負債は、長期借入金が1,078百万円、長期リース債務が135百万円増加し、社債が1,200百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ81百万円増加し3,280百万円となりました。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ716百万円減少し19,265百万円となりました。

当第2四半期連結会計年度末の純資産合計は、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(劣後特約付)の新株予約権の行使に伴い、資本金が600百万円、資本剰余金が600百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,118百万円増加し9,408百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年11月10日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示しております「平成30年9月期第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、通期の連結業績予想につきましては、平成30年3月16日公表の「株式会社アスラポート・ダイニングによるジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社の株式交換による完全子会社化に関する株式交換契約締結の

お知らせ」に記載のとおり、当社は株式会社アスラポート・ダイニングの完全子会社となり、当社株式は上場廃止となることを見込まれますので、平成30年9月期の連結業績予想は記載しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,641	2,824
受取手形及び売掛金	5,460	5,425
商品及び製品	2,843	3,142
仕掛品	1,550	2,044
原材料及び貯蔵品	482	594
その他	698	667
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	15,667	14,687
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,793	6,925
その他(純額)	2,682	3,505
有形固定資産合計	9,475	10,430
無形固定資産		
のれん	1,642	1,980
その他	112	114
無形固定資産合計	1,754	2,094
投資その他の資産		
その他	2,006	2,099
貸倒引当金	△632	△638
投資その他の資産合計	1,373	1,460
固定資産合計	12,604	13,986
繰延資産	0	0
資産合計	28,271	28,673

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,711	3,344
短期借入金	10,554	10,049
1年内償還予定の社債	11	6
1年内返済予定の長期借入金	267	336
未払法人税等	75	51
賞与引当金	14	—
その他	2,149	2,197
流動負債合計	16,783	15,985
固定負債		
社債	1,200	—
長期借入金	853	1,931
退職給付に係る負債	190	207
その他	954	1,140
固定負債合計	3,198	3,280
負債合計	19,981	19,265
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,757	5,357
資本剰余金	10,125	10,725
利益剰余金	△6,865	△6,954
自己株式	△5	△5
株主資本合計	8,012	9,122
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20	23
繰延ヘッジ損益	—	0
為替換算調整勘定	△3	2
退職給付に係る調整累計額	244	232
その他の包括利益累計額合計	261	258
新株予約権	16	20
非支配株主持分	—	6
純資産合計	8,289	9,408
負債純資産合計	28,271	28,673



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
売上高	12,168	16,242
売上原価	8,828	12,282
売上総利益	3,340	3,959
販売費及び一般管理費	3,030	3,806
営業利益	310	153
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	0
持分法による投資利益	8	4
為替差益	—	32
受取保険金	11	28
その他	36	58
営業外収益合計	58	123
営業外費用		
支払利息	166	107
シンジケートローン手数料	—	90
その他	72	77
営業外費用合計	238	275
経常利益	130	2
特別利益		
固定資産売却益	6	4
その他	10	1
特別利益合計	17	5
特別損失		
経営統合関連費用	—	42
その他	25	8
特別損失合計	25	51
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	121	△43
法人税、住民税及び事業税	68	52
法人税等調整額	5	△7
法人税等合計	73	44
四半期純利益又は四半期純損失(△)	47	△88
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	47	△89

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	47	△88
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	2
繰延ヘッジ損益	41	0
為替換算調整勘定	△1	6
退職給付に係る調整額	△3	△11
その他の包括利益合計	33	△3
四半期包括利益	81	△91
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81	△92
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

平成30年2月19日をもって第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(劣後特約付)の新株予約権が行使されました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ600百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が5,357百万円、資本剰余金が10,725百万円となっております。